

資料番号	6
------	---

令和6年12月13日
課名 商工労働局経営革新課
担当者 担当課長 森川
内線 3460

広島県経済の動向

令和6年12月13日

商 工 労 働 局

目 次

1	経済動向の概要	1
	（1）国内経済の動向	
	（2）広島県経済の動向	
2	県内主要製造業の生産動向	3
	（1）鉄鋼	
	（2）自動車	
	（3）造船	
	（4）一般機械	
	（5）電気機械	
3	県内小売業等の動向	5
	（1）百貨店・スーパー	
	（2）宿泊・飲食サービス	
	（3）観光	
4	中小企業の動向	7
	（1）概況	
	（2）景況感・景況感の変化	
	（3）前月から変化のあった主な業種	
5	企業倒産状況	9
	（1）概況	
	（2）業種別	
	（3）原因別	
	（4）今後の見通し	
6	最近の雇用失業情勢	10
	（1）県内の有効求人・求職の動向	
	（2）県内の新規求人・求職の動向	
	（3）県内の人員整理の状況	
	（4）完全失業率の状況（全国・県内）	

（注）「広島県経済の動向」は、国、その他機関等から発表される各種指標を編集、加工し、とりまとめたものです。

1 経済動向の概要

(1) 国内経済の動向

ア 概要

指 標	R 6 年		
	9 月	10 月	11 月
基調判断	景気は、一部に足踏みが残るものの、緩やかに回復している		
輸 出	おおむね横ばいとなっている		
生 産	持ち直しの動きがみられる	このところ横ばいとなっている	
設備投資	持ち直しの動きがみられる		
雇用情勢	改善の動きがみられる		
個人消費	一部に足踏みが残るものの、このところ持ち直しの動きがみられる	一部に足踏みが残るものの、持ち直しの動きがみられる	
住宅建設	おおむね横ばいとなっている		
消費者物価	緩やかに上昇している		このところ上昇している
企業収益	総じてみれば改善している		

イ 先行き

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、アメリカの今後の政策動向、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

【内閣府「月例経済報告」（令和6年11月26日公表）】

(2) 広島県経済の動向

ア 概要

指 標	R 6 年		
	8 月	9 月	10 月
基調判断	緩やかな回復基調にある		
輸 出	横ばい圏内の動きとなっている		弱めの動きとなっている
生 産	横ばい圏内の動きとなっている		
設備投資	増加している		
雇用・所得	全体として緩やかに改善している	緩やかに改善している	
個人消費	緩やかな回復基調にある		
住宅投資	弱めの動きとなっている		
消費者物価 (除く生鮮食品、広島市)	前年を上回っている		

イ 県内の経済の先行き

先行きの景気は、緩やかな回復が続くことが期待されるが、海外経済の動向や物価動向などが県内の経済金融情勢および回復のペースに与える影響を注視していく必要がある。

【日本銀行広島支店「広島県の金融経済月報」(令和6年11月8日公表)】

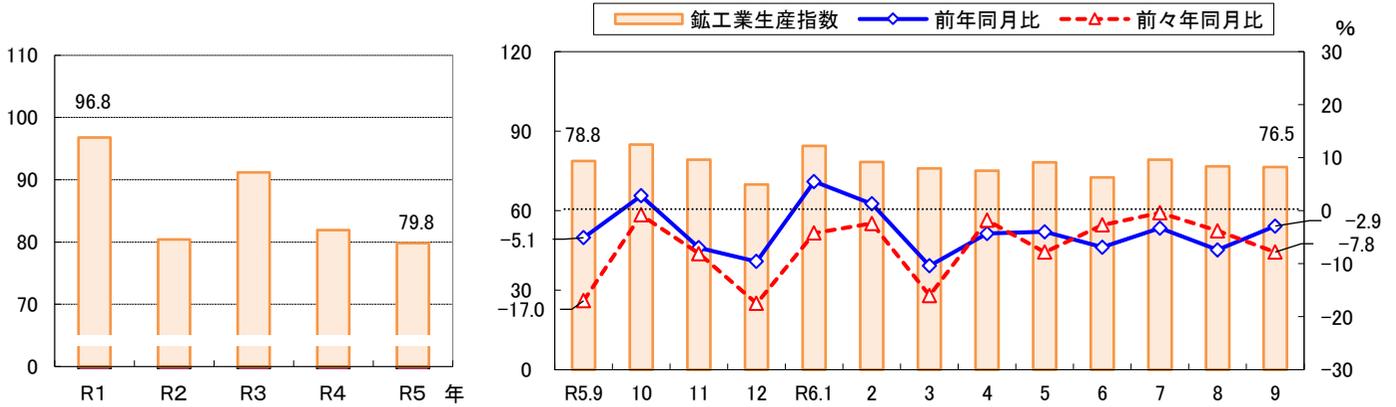
2 県内主要製造業の生産動向

(1) 鉄鋼（令和6年9月）

9月の鉱工業生産指数（鉄鋼業、原指数、速報値、平成27年＝100）は76.5で、前年同月比で2.9%減少、前々年同月比で7.8%減少となっている。

鉱工業生産指数（鉄鋼業）（年別、月別・前年同月比・前々年同月比）

【県統計課】

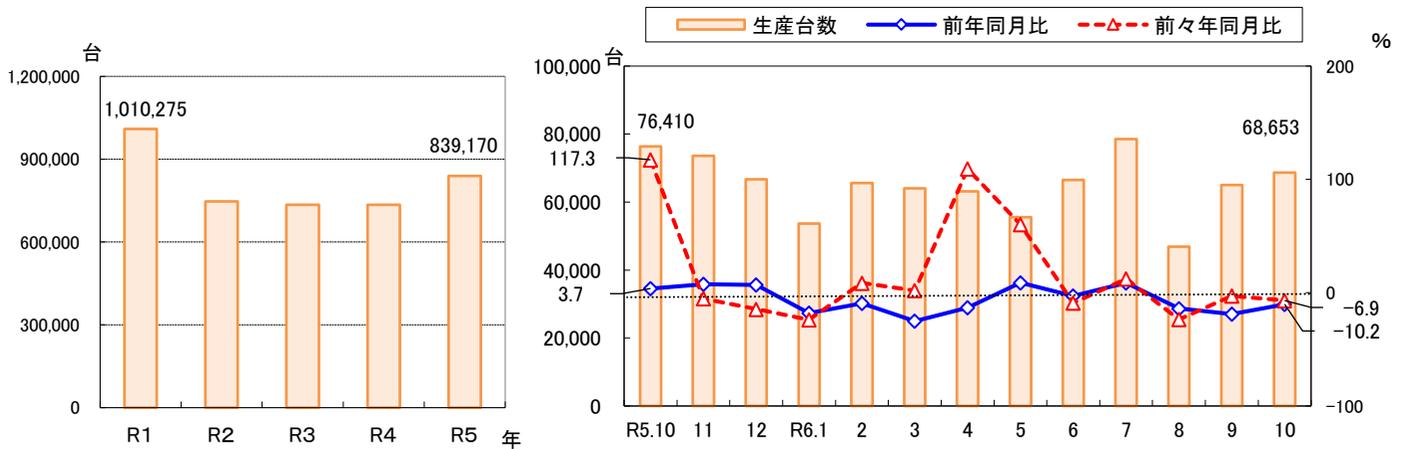


(2) 自動車（令和6年10月）

10月の国内生産台数は68,653台で、前年同月比で10.2%減少、前々年同月比で6.9%減少となっている。

自動車生産台数（年別、月別・前年同月比・前々年同月比）

【マツダ（株）】

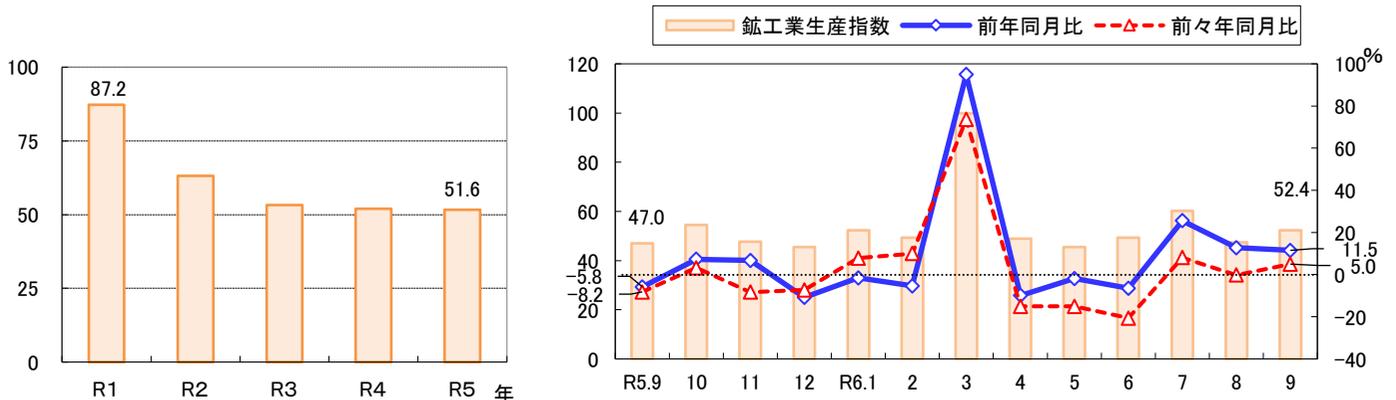


(3) 造船（令和6年9月）

9月の鉱工業生産指数（造船部門、原指数、速報値、平成27年＝100）は52.4で、前年同月比で11.5%増加、前々年同月比で5.0%増加となっている。

鉱工業生産指数（造船部門）（年別、月別・前年同月比・前々年同月比）

【県統計課】

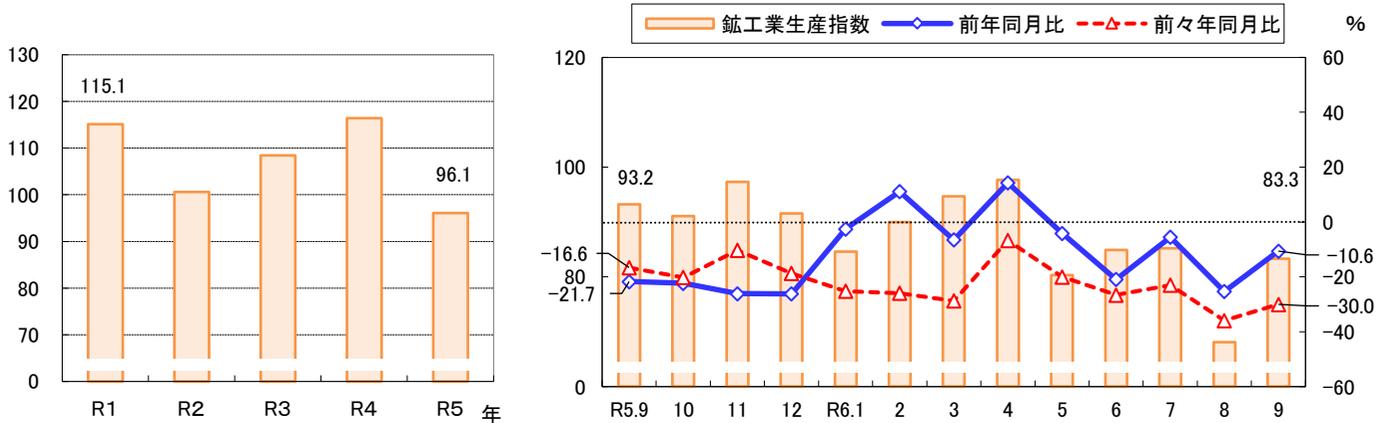


※造船部門に含まれる鋼船修理は、工事終了時での報告に依拠しており、令和6年3月において、生産指数の大幅上昇に寄与していた。

(4) 一般機械 (令和6年9月)

9月の鉱工業生産指数(一般機械工業(総合)、原指数、速報値、平成27年=100)は83.3で、前年同月比で10.6%減少、前々年同月比で30.0%減少となっている。

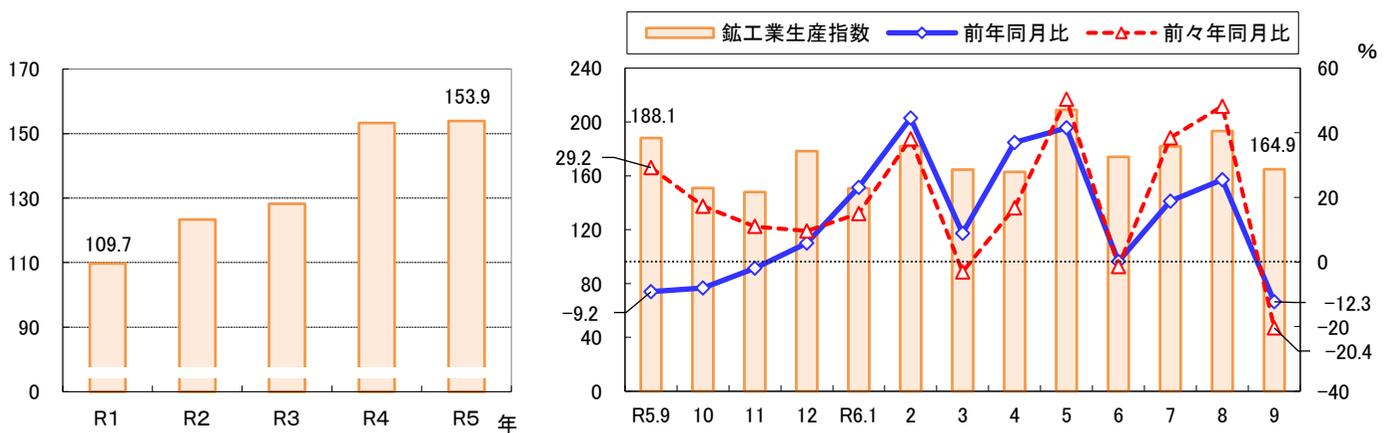
鉱工業生産指数 (一般機械 (総合)) (年別、月別・前年同月比・前々年同月比) 【県統計課】



(5) 電気機械 (令和6年9月)

9月の鉱工業生産指数(電気機械工業(総合)、原指数、速報値、平成27年=100)は164.9で、前年同月比12.3%減少、前々年同月比で20.4%減少となっている。

鉱工業生産指数 (電気機械工業 (総合)) (年別、月別・前年同月比・前々年同月比) 【県統計課】

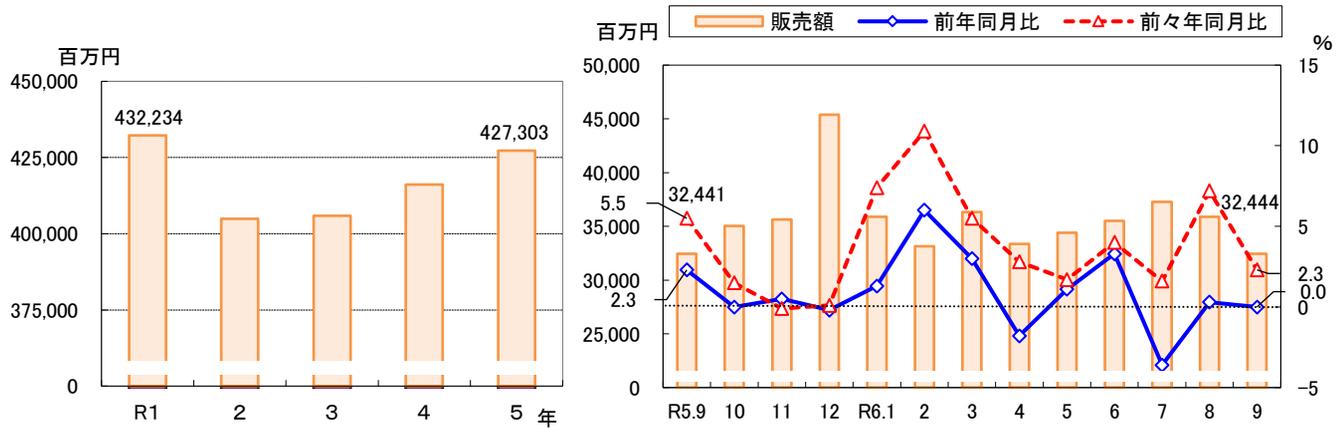


3 県内小売業等の動向

(1) 百貨店・スーパー（令和6年9月）

広島県の9月の販売額は、32,444百万円（速報値）で全店舗前年同月比で+0.0%、前々年同月比2.3%増加となっている。

中国地域百貨店・スーパー販売動向（広島県）（年別、月別・前年同月比・前々年同月比）【中国経済産業局】



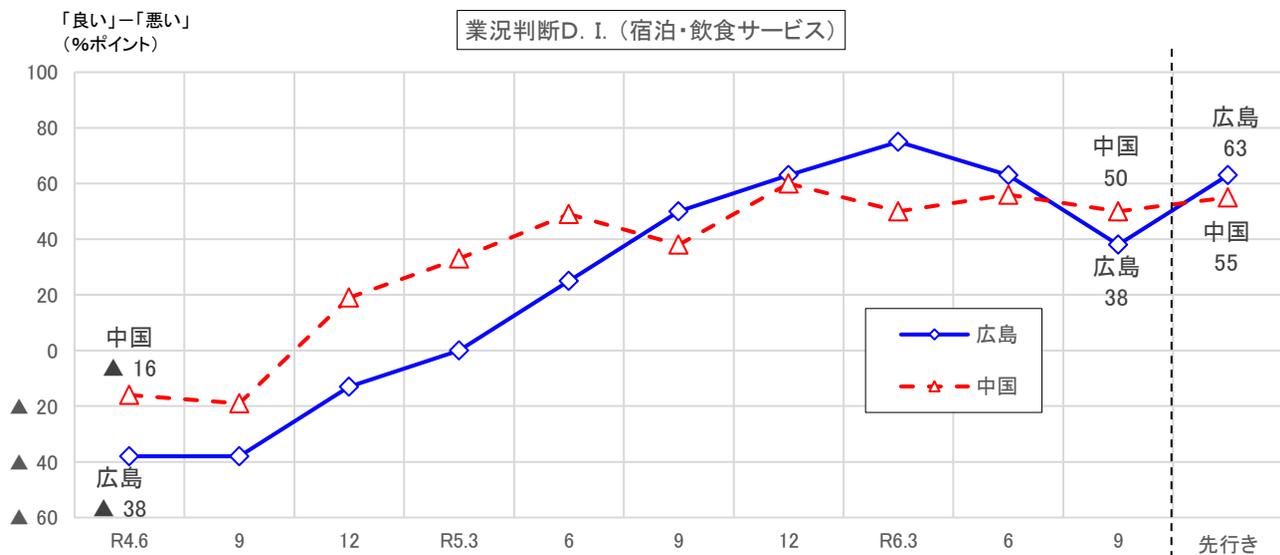
(2) 宿泊・飲食サービス（令和6年9月）

広島県の9月の業種別業況判断D. I.（宿泊・飲食サービス）は、38%ポイントと前回調査時より25%ポイント悪化している。

（「良い」－「悪い」、%ポイント）

調査月	令和6年3月	令和6年6月	令和6年9月	
			最近	先行き
業況判断D. I. (変化幅)	75 (+12)	63 (▲ 12)	38 (▲ 25)	63 (+25)

【日本銀行広島支店「企業短期経済観測調査結果の概要」（令和6年10月1日公表）】



(注) 業況判断D. I.（「良い」－「悪い」回答者数構成比）

(3) 観光

ア 宿泊者数 (令和6年9月)

直近の数値である、令和6年9月の宿泊者数は105.7万人泊で、前年同月と比べ11.2万人泊増(+12%)、コロナ前の令和元年同月と比べて8万人泊増(+8%)となった。また、外国人宿泊者数についても9月は17.5万人泊で、令和元年同月と比べて8.2万人泊増(+88%)と大幅に増加した。

【観光庁 宿泊旅行統計調査】
(単位：万人泊)

区分		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1-9月計	
広島県	宿泊者数	74.6	80.6	109.4	100.5	111.6	92.5	96.3	116.8	105.7	発表前			888.0	
	R5年宿泊者数	71.7	72.8	100.6	97.2	112.3	86.2	92.1	118.1	94.5	109.5	111.5	90.4	845.6	
	R5年比	104%	111%	109%	103%	99%	107%	104%	99%	112%	—	—	—	105%	
	R元年宿泊者数	74.4	77.1	101.8	108.7	108.7	87.5	94.2	114.8	97.7	111.5	101.1	85.3	865.2	
	R元年比	100%	105%	107%	92%	103%	106%	102%	102%	108%	—	—	—	103%	
全国	宿泊者数	4,565	4,785	5,511	5,190	5,390	5,036	5,666	6,498	5,371	発表前			48,011	
	R5年比	109%	112%	104%	110%	105%	106%	104%	101%	103%	—	—	—	106%	
うち外国人	広島県	外国人宿泊者数	7.3	8.4	19.9	22.8	19.9	13.6	15.7	14.3	17.5	発表前			139.5
		R元年宿泊者数	7.0	6.2	11.6	18.1	12.5	9.8	12.7	10.5	9.3	16.5	10.6	7.4	97.7
		R元年比	105%	136%	171%	126%	160%	139%	123%	136%	188%	—	—	—	143%
	全国	外国人宿泊者数	1,124	1,152	1,298	1,450	1,356	1,347	1,470	1,324	1,238	発表前			11,758
		R元年比	122%	124%	136%	129%	139%	140%	136%	140%	150%	—	—	—	135%

※出典：観光庁宿泊旅行統計調査

R6年は宿泊旅行統計調査の速報値で、R元年及びR5年は、確定値を反映。

R6年の宿泊者数は、宿泊旅行統計調査の確定値公表時に置き換えるものとする。

なお、数値については、単位未満の端数処理を行っているため、表内で一致しない場合がある。

イ 県内主要観光施設の観光客数 (令和6年10月)

8~10月は、天候が良好な日が多く、お盆期間や祝日に伴う連休期間が前年より多かったことなどから、連休を利用した外出機会が増加し、R元年及びR5年同期水準を上回る施設が複数見受けられた。

【各観光施設からの聞取調査】
(単位：人)

観光施設	R元年			R5年			R6年			
	8月	9月	10月	8月	9月	10月	8月	9月	10月	
広島平和記念資料館	213,606	164,579	237,213	200,400	176,535	237,858	220,905	194,849	271,923	
	R元年比	—	—	94%	107%	100%	103%	118%	115%	
	R5年比	—	—	—	—	—	110%	110%	114%	
宮島来島者数	447,417	332,267	406,033	450,855	375,674	477,383	427,009	402,424	467,391	
	R元年比	—	—	—	101%	113%	118%	95%	121%	115%
	R5年比	—	—	—	—	—	—	95%	107%	98%
大和ミュージアム	141,051	91,724	97,758	105,264	69,328	76,915	105,439	70,383	76,296	
	R元年比	—	—	—	75%	76%	79%	75%	77%	78%
	R5年比	—	—	—	—	—	—	100%	102%	99%
道の駅たけはら	16,191	15,924	16,417	10,504	10,153	10,986	10,404	10,013	10,199	
	R元年比	—	—	—	65%	64%	67%	64%	63%	62%
	R5年比	—	—	—	—	—	—	99%	99%	93%
神楽門前湯治村 (定期公演)	3,517	1,981	3,437	1,865	1,731	1,749	1,751	2,000	1,013	
	R元年比	—	—	—	53%	87%	51%	50%	101%	29%
	R5年比	—	—	—	—	—	—	94%	116%	58%
千光寺ロープウェイ	50,681	41,576	43,134	53,834	43,297	48,859	51,993	46,287	45,874	
	R元年比	—	—	—	106%	104%	113%	103%	111%	106%
	R5年比	—	—	—	—	—	—	97%	107%	94%
福山市鞆の浦歴史民俗資料館	1,654	1,229	2,072	1,208	1,216	1,559	1,191	1,235	1,452	
	R元年比	—	—	—	73%	99%	75%	72%	100%	70%
	R5年比	—	—	—	—	—	—	99%	102%	93%
国営備北丘陵公園 (千人)	44	30	70	33	25	49	30	22	37	
	R元年比	—	—	—	75%	85%	70%	69%	75%	53%
	R5年比	—	—	—	—	—	—	92%	88%	75%

4 中小企業の動向（令和6年10月）

【広島県中小企業団体中央会（令和6年11月12日時点）】

（1）概況

県内の中小企業の多くは、長期的な人手不足の中、原材料価格等のコスト上昇に係る価格転嫁が進まないことや消費者の買い控えによる需要の停滞等が影響し、景況感は依然として厳しい状況にあり、先行きについても不透明な状況が続いている。

自動車関連業種では、10月の国内自動車販売台数は前年同月比+1.2%と2ヶ月連続で増加。マツダ車は-0.0%。

また、木材業界では、10月の全国新設住宅着工戸数は69,669戸で前年同月比▲2.9%。県内の10月の着工戸数は1,194戸で、前年同月比▲9.3%となった。

※マツダ車に関する記載はマツダ（株）が発表する「10月の生産・販売状況について」に基づく

※木材業界に関する記載は、国土交通省が公表する「建築着工統計調査報告」及び広島県がホームページに掲載する「新設住宅着工戸数」の10月分のデータに基づく

（2）景況感・景況感の変化

業種	9月の景況感	10月の景況感
食料品	やや悪い	やや悪い
繊維・衣服	やや悪い	やや悪い
木材	普通	やや悪い
家具	やや悪い	やや悪い
印刷	普通	普通
化学	普通	やや悪い
プラスチック製品	やや悪い	やや悪い
土石製品	悪い	悪い
鉄鋼（鋳物）	やや悪い	普通
金属製品	普通	普通

業種	9月の景況感	10月の景況感
一般機械器具	普通	普通
電気機械器具	普通	普通
自動車部品	やや悪い	やや悪い
造船	普通	普通
建設	普通	やや悪い
トラック輸送	普通	普通
内航海運	やや悪い	普通
卸売	やや悪い	やや悪い
小売	普通	普通
情報サービス	普通	普通

（単位：業種）

景況感	9月	10月	増減数
好況	0	0	0
やや好況	0	0	0
普通	11	10	▲1
やや悪い	8	9	1
悪い	1	1	0

(3) 前月(9月)から変化のあった主な業種

業種	9月の景況感	10月の景況感	変化の理由・状況
木材	普通	やや悪い	木材需要の見通しは厳しい状況にある。木材価格は、木材需要の多くを占める住宅着工の低迷が長期化していることが主な要因となり、低下している。 【広島県木材協同組合連合会】
化学	普通	やや悪い	国内において自動車の価格が上昇し、販売量が低下している印象であるが、部品メーカーのコスト上昇分の価格転嫁が進んでいるとはいえない。 【中国ゴム工業協同組合】
建設	普通	やや悪い	物価高騰が続き、業況は停滞している。 【神辺建設業協同組合】
鉄鋼(鋳物)	やや悪い	普通	業界全体の売上・利益などは年末に向けて多少増加すると思われるが、人材不足が深刻であり、また、他業界と比較して、コスト上昇分に対する価格転嫁が進んでいない印象である。 【軋鉄鋼協同組合連合会】

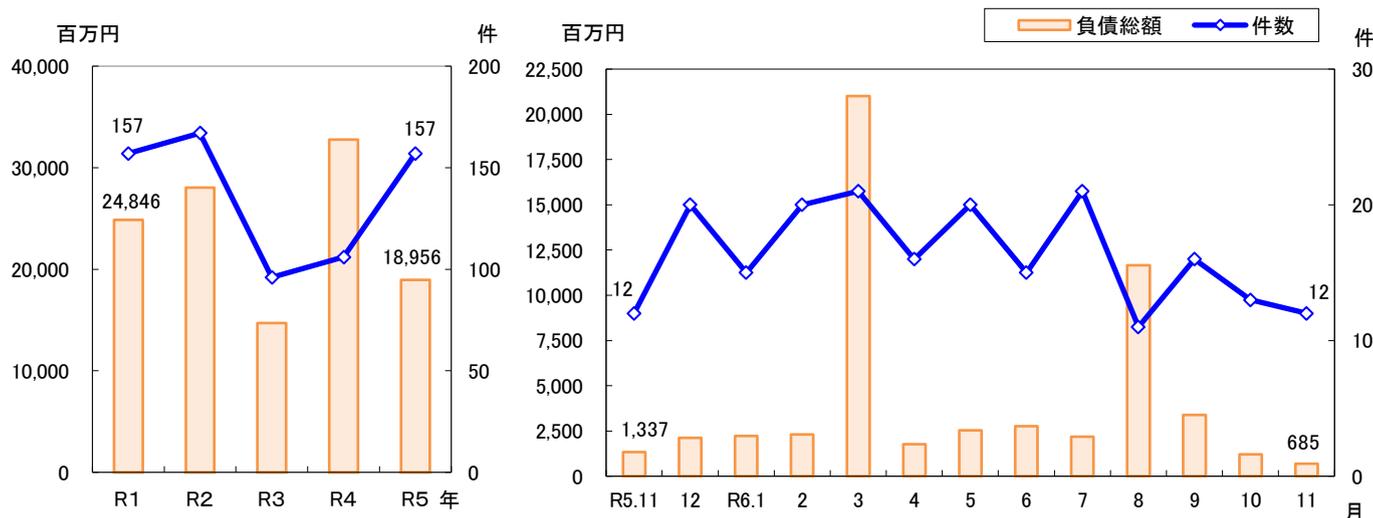
5 企業倒産状況（令和6年11月）

（1）概況

- ・負債総額1,000万円以上の倒産は、件数が12件、総額6億8,500万円であった。
- ・前月比で件数は1件減少し、負債総額は5億1,800万円減少した。
- ・前年同月比では、件数は増減なし、負債総額は6億5,200万円減少した。
- ・大型倒産（負債総額10億円以上）の発生はなかった。

区 分	令和6年9月	令和6年10月	令和6年11月
件 数 (前年同月比)	16件 (23.1%増)	13件 (31.6%減)	12件 (0.0%)
負債総額 (前年同月比)	3,383百万円 (22.5%増)	1,203百万円 (28.9%減)	685百万円 (48.8%減)

企業倒産件数・負債総額(1,000万円以上)(年別・月別・前年同月比)



（2）業種別

件数は、建設業が4件、卸・小売・飲食業が3件、製造業、サービス業が各2件、運輸・通信業が1件となった。

負債総額では、建設業、卸・小売・飲食業、運輸・通信業、サービス業、製造業の順となった。

（3）原因別

原因別では、販売不振が9件、既往のシワ寄せが2件、放漫経営が1件であった。

（4）今後の見通し

令和6年11月度の倒産件数は12件で、11月度としては令和5年より2年連続の10件超えとなった。負債総額は6億8,500万円、2ヶ月連続で前年同月比を下回り、増勢傾向から転じて減少が続く結果となった。

業歴別倒産状況では30年以上が3件、20年以上30年未満が1件、10年以上20年未満が5件と業歴10年以上の倒産が全体の75.0%を占め、前月10月度では業歴10年以上の倒産が全体の84.6%と比較的業歴の長い企業の倒産が続いている。

原因別にみると販売不振が9件で最多となり、既往のシワ寄せは2件、売掛金回収難は0件で、これらを合計した不況型倒産は11件で全体の91.7%を占めた。

そのような中、新型コロナウイルスを要因とした倒産は11月度12件中2件発生し、これまでの累計は274件（負債総額1,000万円以上かつ弁護士一任・準備中を含む）となっているが、このうちゼロゼロ融資を利用した企業は無かった。

コロナ禍を経て、金融機関に支援要請時の粉飾発覚や雇用調整助成金などコロナ禍の支援策の悪用が表面化している。「税金滞納（社会保険を含む）」に伴う倒産や雇用調整助成金など「不正受給」関連倒産に加え、広島県内の大型倒産でも発生した「粉飾決算」関連倒産など企業には自立・自走とモラルが問われている。

また、広島県では建設業の倒産が増勢傾向となっており、建築資材の価格高騰に加え、消費の冷え込みを背景に工事受注が低調となっていることが背景と見られる。11月6日、東京外為市場は3ヶ月ぶりに一時、1ドル=154円台の円安に振れた。9月は1ドル=140円台の円高だったが、急激に円が下落した。円安は原材料や資材、燃料などの価格高につながり、価格転嫁が難しい中小・零細企業の収益を圧迫している。こうした原材料や資材、燃料価格の高騰への対策としては価格転嫁が必須となる。そのためには企業としての競争力を保たなければ価格転嫁は厳しい。今後、企業が生き残るためには独自性や競争力を確保していく必要がある。

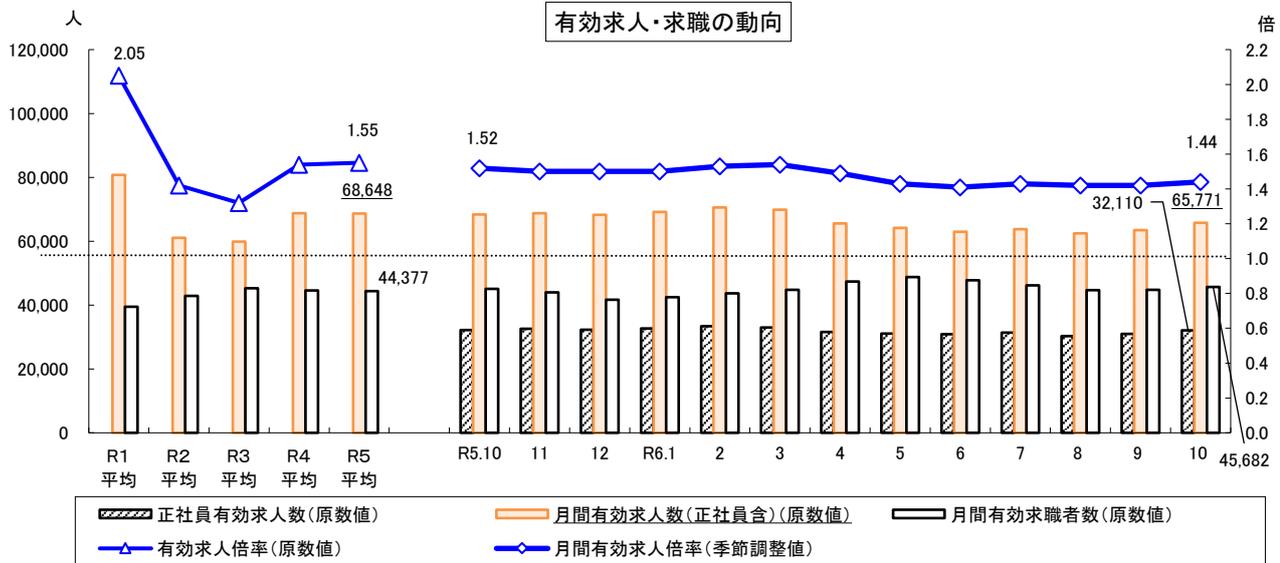
11月度としては10月度から連続して前年同月比を下回ったが、年間としては増勢傾向にあるのは間違いなく、経済情勢を鑑みて今後においても予断は許されない状況が続くものと見られる。

6 最近の雇用失業情勢（令和6年10月）

（1） 県内の有効求人・求職の動向

区 分	令和6年8月	令和6年9月	令和6年10月
有効求人倍率〈季節調整値〉 (前月比)	1.42倍 (▲ 0.01ポイント)	1.42倍 (±0.00ポイント)	1.44倍 (+0.02ポイント)
正社員有効求人倍率 (前年同月比)	1.17倍 (▲ 0.04ポイント)	1.20倍 (▲ 0.01ポイント)	1.22倍 (+0.01ポイント)

【広島労働局】



(注1) 正社員有効求人倍率は、正社員の有効求人人数をパートタイムを除く常用有効求職者数（派遣労働者や契約社員を希望する者も含む）で除して算出しているため、厳密な意味での正社員有効求人倍率より低い値となる。

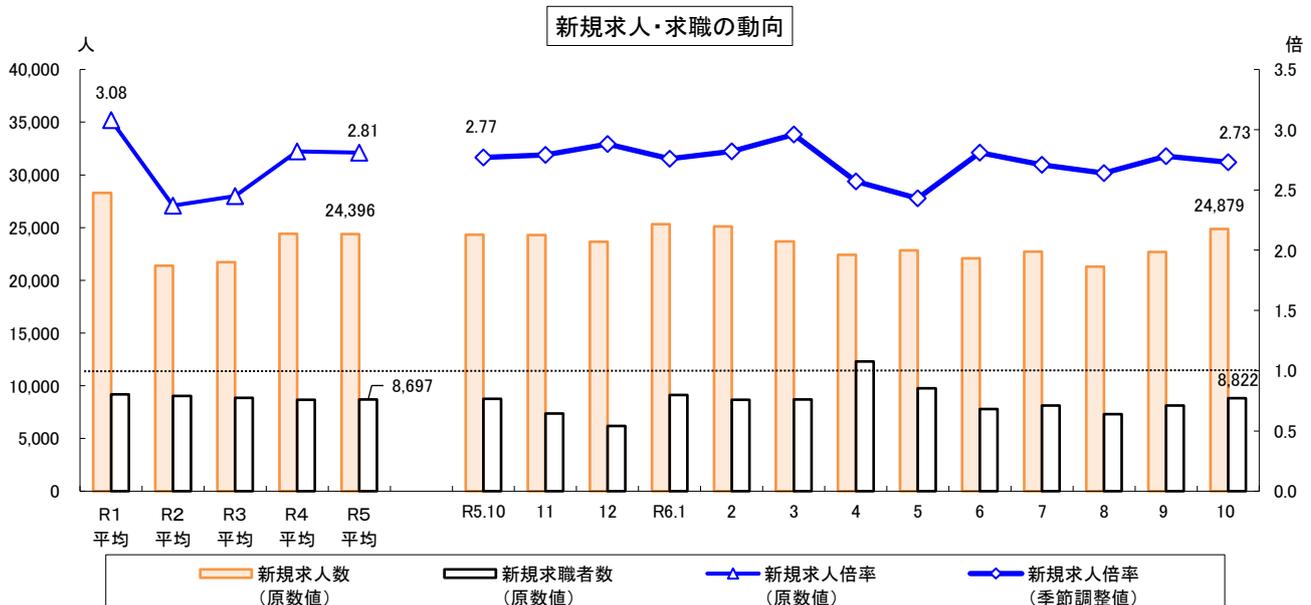
(注2) 正社員有効求人倍率は、季節調整されていない。

(注3) 季節調整値は毎年1月分公表時に過去にさかのぼって改訂される。

（2） 県内の新規求人・求職の動向

区 分	令和6年8月	令和6年9月	令和6年10月
新規求人倍率〈季節調整値〉 (前月比)	2.64倍 (▲ 0.07ポイント)	2.78倍 (+0.14ポイント)	2.73倍 (▲ 0.05ポイント)

【広島労働局】

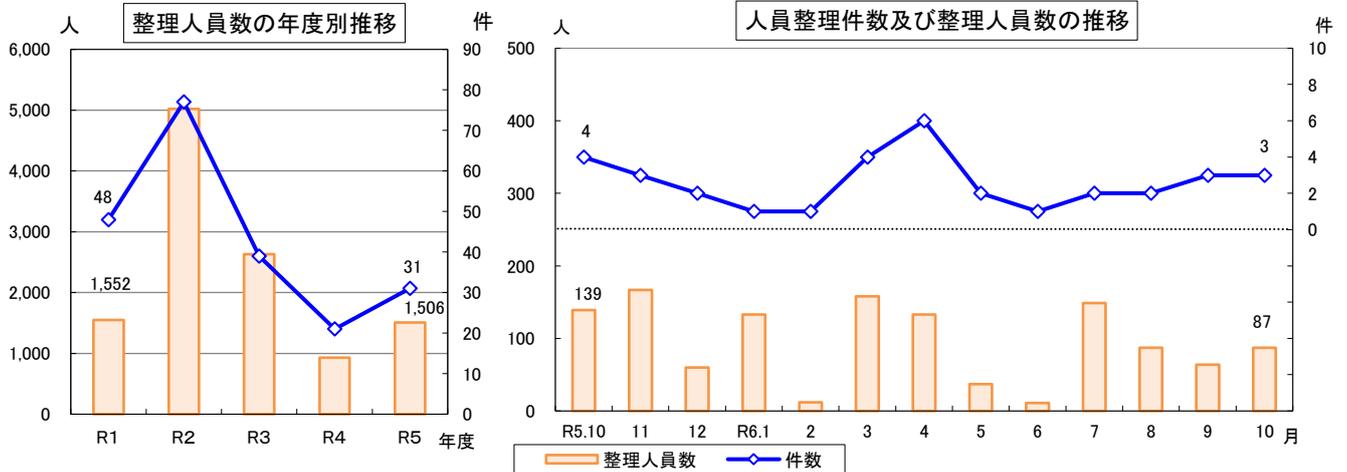


(注) 季節調整値は毎年1月分公表時に過去にさかのぼって改訂される。

(3) 県内の人員整理の状況（整理人員10人以上）

区 分	令和6年8月	令和6年9月	令和6年10月
件数 (前年同月比)	2件 (▲ 4件)	3件 (▲ 2件)	3件 (▲ 1件)
整理人員 (前年同月比)	87人 (▲ 69人)	64人 (▲ 56人)	87人 (▲ 52人)

【広島労働局】

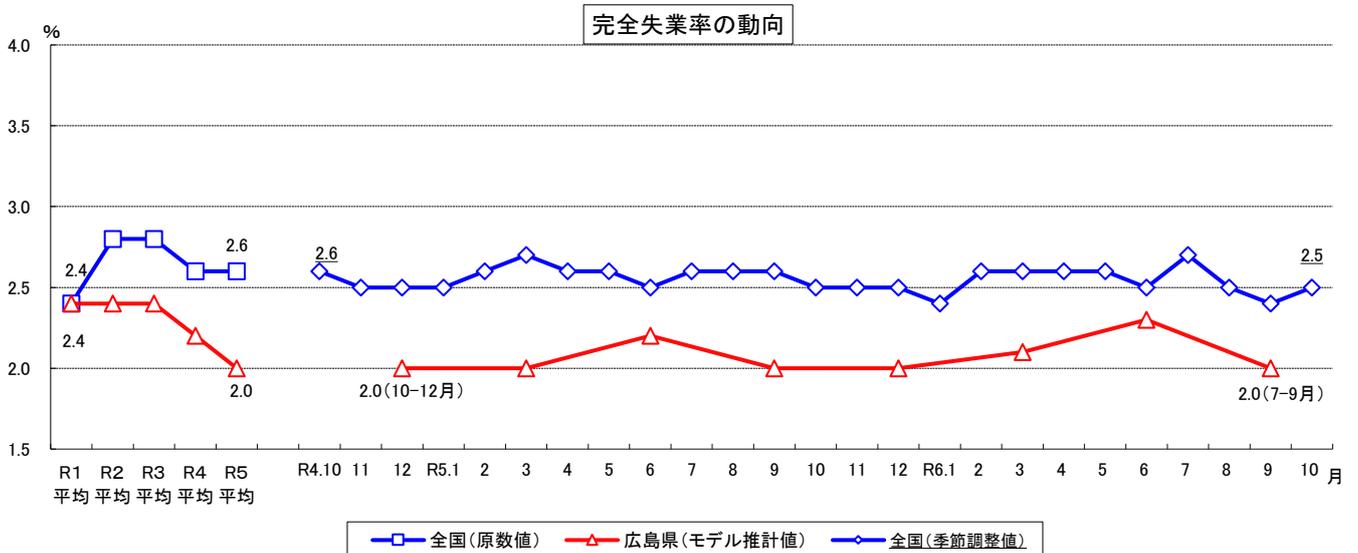


(4) 完全失業率の状況(全国・県内)

区 分	令和6年8月	令和6年9月	令和6年10月
全国完全失業者数 (前年同月比)	175万人 (▲ 11万人)	173万人 (▲ 9万人)	170万人 (▲ 5万人)
全国完全失業率〈季節調整値〉 (前月比)	2.5% (▲ 0.2ポイント)	2.4% (▲ 0.1ポイント)	2.5% (+ 0.1ポイント)

区 分	令和6年		
	1～3月平均	4～6月平均	7～9月平均
広島県完全失業率 (モデル推計値) (前年同期比)	2.1% (+0.1ポイント)	2.3% (+0.1ポイント)	2.0% (±0.0ポイント)

【総務省統計局】



※ 全国完全失業率の季節調整値は毎年1月分公表時に過去にさかのぼって改訂される。
 ※ 広島県(モデル推計値)は、毎年1～3月期平均公表時に、新たな結果を追加して再計算を行い、前年までの四半期平均及び年平均結果を過去にさかのぼって一部改定している。